

第3部 座談会

創設80周年を迎えた香友会の これからを語り合う

～新しい時代に向けての展望と課題～

出席者 (順不同)

■山下 静江

香友会第13～15代会長、香友会創設80周年記念事業実行委員長
くらしき作陽大学名誉教授。学部昭和40年卒業

■遠藤 徳夫

香川調理製菓専門学校助教授。製菓科昭和63年卒業

■新出 真理

ヘルスサポート研究会カナン代表。短大昭和60年、学部昭和62年卒業、大学院博士令和2年修了

■久保田 美穂

女子栄養大学栄養学部専任講師。学部平成9年卒業、大学院修士平成11年修了

■中村 悟子

管理栄養士として病院に勤務後、現在は子育て中。学部平成24年卒業、大学院修士令和2年修了

司会

■磯田 厚子

香友会第16代会長、女子栄養大学副学長、女子栄養大学名誉教授。
学部昭和47年卒業、大学院修士昭和49年修了



創設 80 周年を迎えた香友会の これからを語り合う

～新しい時代に向けての展望と課題～

創設80周年という記念すべき年を迎えた香友会。大学院、大学、短大、専門学校という異なる学校種目を持つ香川栄養学園の5万人を超える卒業生を会員として抱えています。節目の年に、その会長職も山下静江会長から磯田厚子会長へと引き継がれました。変化の激しい時代にあって、同窓会組織はどうあるべきなのか。新旧お二人の会長に幹事の皆さんも加わり、香友会の現状と今後について話し合っていました。

大学院から専門学校まで
会員数5万人の同窓会



磯田 香友会は80周年という節目の年を迎えることができました。本座談会ではこれからの香友会はどうあるべきか、どうなっていきたいのかという今後の展望について、香友会の幹事・中心メンバーである方々に集まっていただき、お話を伺います。香友会会員の卒業校は大学院、大学、短大、専門学校と多岐にわたり、仕事をしている方もしていない方もいて、会員の職種もさまざまです。また全国各地に支部があつて活動しています。多様な会員を抱える同窓会組織である香友会のこれからについて、みなさんそれぞれの立場から香友会の展望や期待、あるいは課題をお話し願えればと思います。それではまず、お名前と卒業校、お仕事や経歴などを簡単に紹介ください。では第13～15代の香友会会長である山下実行委員長からお願いします。

山下 第13～15代の会長を務めさせていただきました。私は昭和40年に女子栄養大学を卒業いたしました。家政学部ができたときの1期生です。九州にある短期大学で教鞭をとった後、大学や専門学校などで栄養学に関する教職に就いておりました。75歳でくらしき作陽大学の食文化学部長を退任し、そのとき香友会第13代会長として推薦をいただきました。その後第14代、15代と6年間、会長を歴任しました。

遠藤 香川調理製菓専門学校で教員を



山下 静江
香友会第13～15代会長、
くらしき作陽大学名誉教授
学部40年卒

しています遠藤です。私は高校卒業後に、香川栄養専門学校（当時）の製菓科に入學し、1年間学んで昭和63年に卒業しました。ホテルメトロポリタンに就職した後、母校に戻る形で香川栄養学園付帯事業部の菓子工房プラントに勤務、その後、異動して現在に至ります。兼任でプラントの責任者も務めさせていただいております。

新出 新出です。私は女子栄養短期大学を昭和60年に卒業後、大学に編入して昭和62年に卒業しました。その後厚生省（当時）所管の財団法人と総合健保組合と半官半民の職場で9年間働いた後、他大学の大学院修士課程に進学、修了と同時に管理栄養士やカウンセラー資格をもった健康教育コンサルタントとして「ヘルスサポート研究会カナン」を起業しました。カウンセリング理論を用いた健康・栄養教育や企業・自治体のコンサルティングなどをおこなっているほか、保健医療福祉の専門職の養成大学などで

も教えながら、本学栄養科学研究所の客員研究員として研究をしています。現在は香友会研修部の部長をさせていただいております。

久保田 女子栄養大学教員の久保田です。私は平成9年に女子栄養大学を卒業後、そのまま修士課程に進みました。修了後、埼玉県内の小・中学校の養護教諭として16年間勤務したのち、ご縁をいただき本学にて、養護教諭の養成に携わらせていただいております。

中村 中村と申します。私は女子栄養大学を平成24年に卒業しました。卒業後は千葉県にある総合病院に管理栄養士として就職、その後埼玉県の産婦人科病院に転職しました。そこで4年ほど働いてから本学の修士課程に入學、在学中に妊娠、修了後に出産しまして、現在は子育てをしながら本学栄養科学研究所の客員研究員として研究を続けさせていただいております。

磯田 最後になりましたが、本日、司会を務めさせていただく磯田です。私は女子栄養大学を昭和47年に卒業後、修士課程に進みました。その後、本学に助手として入り、それから13年間は主に地域の保健や栄養の調査をしておりました。それから思うところあつて国際協力に関わるようになり、アフリカでの難民支援や東南アジアでの農村開発の事業に携わりました。どちらかといえば栄養学というより地域開発の仕事をしてきました。その後、縁あつて再度本学の教員として出戻り、2年前に女子栄養大学を定年を

迎え、現在は副学長を務めさせていただいています。また香友会では令和3年6月から、山下前会長の後を継いで第16代の会長に就任いたしました。大学内の役職を持ちながら香友会の会長をするケースはあまりなく、両方の立場を踏まえて良い関係をつくれたらと思っています。香友会との関わりでは、鈴木久乃会長のとき幹事を、吉田企世子会長のとき副会長をやらせていただき、そして今回会長ということになりました。

幹事になって思う 「私でいいの？」



磯田 さっそく本題に入っていきます。今日ご出席の方々は、香友会との関わりが長い方も浅い方もいらっしゃると思います。それぞれ香友会にどんな印象をお持ちだったのか、また香友会と関わるようになってそれがどう変わったのか、そのあたりからお聞かせ願えますか？香友会との関わりがいちばん短い久保田さんはいかがでしょう？

久保田 私は今年から幹事としてお世話になっていきます。香友会の印象といいますと、そうそうたる先輩方がいらっしゃる中で幹事を拝命し、「私でいいのか？」と不安な面もありました。私が幹事なんて「畏れ多い」と感じる一方で、諸先輩のそばで自分を研鑽したいという気持ちもあり、関わらせていただくことになりました。香友会がもっと身近な存在になる一助になればいいなと思っています。

中村 私は在学中に香友会わかば奨学生に選んでいただき、そこから香友会を意識するようになったと思います。それからしばらく経ち、若葉祭（学園祭）実行委員だったときに大学の学生生活課にいらした方から「香友会の幹事をやってみませんか」と声を掛けていただきました。奨学生としてお世話になったし、香友会の力になったらいいなと思いいそれから関わらせていただいています。でも最初は香友会にどんな部署があるのかも知りませんでした。入ってみると、「香友会はこんなこともやっていたんだ！」と驚くことがあります。勉強会とか研修とか、もし知っていたら参加したかったような活動もあります。最初は広報部の仕事から始めたので、『香窓』に講演会のレポートを書かせていただいたりしましたね。『実はこういうことをやっています』という香友会の活動を、私たちの世代は知らない人がもしかしたら多いのかもしれません。こんないろいろなこと、



久保田 美穂
女子栄養大学栄養学部専任講師
学部平成9年卒、
院修士平成11年修了

素晴らしいことをやっているんだということをもっと伝えられたらいいと思うし、そのために少しでも力になればいいなと思っています。

女子栄養大学卒業生に 「王道」はあるのか



新出 私が最初に香友会と関わることになったきっかけは20年ぐらい前、香友会の幹事だった仕事関係の先輩から「あなた、幹事をやらない？」と誘われ、なんとなく断れないまま引き受けたというのが始まりです。その後仕事で忙しくちよつと離れていたのですが、吉田会長のときの香友会ホームカミングデーのイベントに出ることになり、そこからまた香友会と関わるようになりました。久保田さんと同じようにわたしも「畏れ多い」というか、もつとベテランで、栄養士として王道の仕事をしている人がやるものじゃないか、という気持ちがあったのです。私は栄養指導の仕事はずっとしているのですけれども、カウンセリングに興味が強かったり、途中で他学の大学院に行ったり、「王道」を歩んでいるとは思えないので「私なんか関わっちゃいけないのでは？」という思いも正直なところありました。それを吉田会長から「そんなことは気にしなくていいわよ」と言っていたので、関わるようになったという経緯があります。関わってみると実際に中村さんがおっしゃったように「こんなこともやっていたのか」ということがありましたね。断れずに軽い気持ちで始め

た香友会との関わりですが、今はその良さも難しさも感じています。

磯田 そのへんは後でゆつくりと（笑）。香友会のやっていることが意外に知られていないことが皆さんのお話からもわかりますね。最後に遠藤さんお願いします。

遠藤 学生のときは私も香友会のことには気にもしていませんでした。お付き合いをさせていただくようになったのは学校に戻ってからで、会長や事務局の方が一生懸命お仕事をされている中、名前だけは知っているという状態でした。皆さんも感じているかと思いますが、専門学校と大学とは香友会に対する立ち位置が少し違うというか、距離感があるのは確かですね。その点はずっと課題としてあります。専門学校の古川校長が香友会を立ち上げ、香友会の下部組織のような形で活動もさせていただくようになっていきます。今日は折角の機会ですので、専門学校の意見を述べさせていただければと思っています。

距離を感じる在学生に 香友会をPRする必要性



山下 いろいろお話を伺っていると、「どうしたものか」という感じがします（笑）。最初に中村さんが「香友会ってこんなことしているんだ」と驚いたという話がありました。私が3期会長の務めた中で香友会のPRが足りなかったとしたら本当に申し訳なく思います。香友会が取り組んでいることを全て理解しているのは幹事と事務局ぐらいのもので、一般

の会員とはちょっと距離があるのは確かですね。その距離をなんとか縮めたいとPR活動をしてきたつもりなんですけれど、なかなか至らなくて申し訳ない限りです。卒業後、私は50年近く本学から離れていました。前の大学を退任したとき、「他に誰もいないからやって欲しい」と。お役に立てるのならと会長をお引き受けしましたが、新出さんと同じで「私に関わっていいのかしら?」という気持ちもありました。それでも任期の間は、なるべく香友会が外から見えるよう可視化に努めたつもりです。また香友会は同窓会なのでどうしても「先輩、後輩」の関係はあるのですが、なるべく皆が同じ目線で立って、誰もが一人の会員として対等に扱われる公平性を保つよう心掛けてきたつもりです。

磯田 今一通りお話を伺ったところでは、栄養士、管理栄養士に進むのが王道で、香友会はその分野で活躍する人たちが集まる会、というイメージがあるようですね。そこに距離感を感じる人が多いのでしょうか?

山下 管理栄養士だけが王道ということはないと思うんですよ。どんな分野に進んでも、そのどれもがその人にとっての「王道」なんです。女子栄養大学を卒業したら管理栄養士にならなきゃいけないとか専門性を発揮しないといけないという話は地方に行っても聞きますが、皆さんがそれぞれの場所でイキイキしていることが王道なのだと思います。

起業・開業する卒業生を支援する方法を探る



磯田 管理栄養士だけではなく、それぞれの道が王道だというイメージに変える必要がある、ということですね。会員一人ひとりが同じ卒業生としてそういうイメージを持つてくれるといいのですけれど。どうしたらそのイメージに変えることができるのでしょうか? 今は本学卒業生の職種もさまざまです。とりわけ専門学校から見た香友会に距離感があるというお話がありました。

遠藤 専門学校は在学期間が1年、長くて2年で大学ほど長くありません。それに場所が駒込ということもあります。香友会の活動はやはり大学のある坂戸が中心だと思います。ですから今回のように大学を卒業されている方々を前にすると、専門学校の卒業生とは「立ち位置が違うなあ」という感じがします。大学では学問、栄養学ということが非常に大事ですけど、専門学校は調理技術など調理の専門色が強いので、専門学校の生徒が香友会の活動もピンとこない面がどうしてもあります。ただ先日、香友会わかば奨学金をいただき、それが一つの励みになり、卒業後に自分のお店を持った卒業生が遊びに来てくれました。香友会から専門学校の生徒がご支援をいただいているのは確かなので、今後は香友会も含めて香友会ともうまく関わっていければいいなと思っています。

磯田 専門学校の卒業生には自分のお



遠藤 徳夫
香川調理製菓専門学校助教
製菓科63年卒

店を開いている方がけっこういらっしゃるんですよ。

遠藤 今専門学校では「グルメガイド」という冊子を出しており、そこで卒業生が活躍しているお店を紹介しています。今作っているもので3冊目になります。が、その費用を香友会からご支援いただいています。大学を含めれば本学卒業生は何万人といるので、できれば開業を援助していただいたり、お店を訪ねていただいたり、香友会のホームページで紹介していただいたりすると大変ありがたいです。

磯田 香友会ホームページからリンクを貼ったりできますね。そういう形で「卒業生を香友会が支援している」ということを目に見える形で示すことができるかもしれません。

遠藤 そうですね。そうしていただくと専門学校と香友会の距離も縮まるような気がします。

山下 専門学校に限らず、卒業生が起

業したら香友会が支援する、そんな方向性が見えてきましたね。

磯田 新出さんはどういうきっかけで起業されたんですか?

新出 バブル経済が弾けたとき、私が働いていた健保組合にもその余波がありました。運営母体の経済状態が悪化して、将来的に私の下の人をリストラするか自身が辞めるかという選択肢が浮かんできたんです。それだったら自分のやりたいことをやるということで退職して大学院へ行き、プライベートと仕事を両立させようと思って起業しました。高い志があったわけではありません(笑)。女性が働くとき、「仕事か出産か?」というのは私にとっては違和感があり、両立できる環境を自分で作ってしまおうという思いでした。

磯田 チャレンジングでとても良いですね。建学の精神である「食を通して健康をつくる」という考えに立てば、広い活躍の場があり得るのですよね。大学でも専門学校でも、お店の開き方とか起業の方法とかということは教えているのですか?

新出 私は、教わらなかつたです。

遠藤 店舗経営論や実践経営簿記といった授業はあります。ただ開業に向けての具体的な指導というのはしていません。「こんなふうにとやるといいですよ」といったさわり程度の話をするくらいですね。

磯田 開業の相談に来る卒業生はいるのですか?

遠藤

中にはいます。そういう生徒には、一人でお店を立ち上げるのは難しいので専門の業者を紹介したりしています。実店舗を自分で持つ場合もあります。最近では小さな菓子工房を借りて商品を作り、インスタグラムなどのSNSで発信して販売するという手法も出てきています。そういう時代なのか、あるいはコロナ禍が関係しているのかもしれませんが。

山下 わかば奨学生の応募書類を見ると、「お店を開きたい」という人が目につきます。開業や企業に香友会が何か支援できることがあったら良いですね。

磯田 研修部でそういう企画ができるかもしれません。

新出 会社にするのかしないのかとか、起業の形態によって必要なものが違ってきます。司法書士のような専門家がいくつか事例を紹介する、というような形は可能かもしれませんね。香友会にはいろいろな形で独立している方がいらっしやいますし。

ライフステージの転換期に 貢献できる香友会を



磯田 卒業してから最初は就職すると思うんです。何年かして次のライフステージに進み、中には自分でやろうという人が出てくるでしょう。何年か経つとまた次のステージに進む。今お話を聞いていると、そういうステージの転換時期に香友会で何かできないだろうかと思

うのですが、いかがですか？ 就職課では企業からの募集があれば紹介してくれますが、ライフステージが変わって次へ行くという人を支えるところまでは手が回っていませんよ。

新出 ステージが変わるとき相談する場があれば良いなと思います。ただそういうことは自治体でもやっていると思うので、同窓会がやる意義をはっきりさせる必要があるかもしれません。以前、昭和女子大学でやっているようなメンター制度があるといいね、と山下実行委員長にお話ししたことがありますね。

磯田 メンターというのは相談に乗ってくれる人ですか？

新出 そうです。職場内に限らず「職場外の先輩に相談したい」というニーズもあるので、利害関係なく相談し助言を得られるのがメンター制度です。

磯田 職種によっては先輩・後輩の関係が濃いとこがあるって、たとえば養護教諭などは卒業生で会を作っていますよ



新出 真理
ヘルスサポート研究会カナン代表
短大60年、学部62年卒、
院博士令和2年修了

ね。あれはどういう仕組みなんですか？

久保田 女子栄養大学を卒業した養護教諭には「あさば会」という同窓会組織があります。以前はそれぞれの学年で幹事を決めていたんですが、3年前から「働き始めてから5年経過した期、つまり卒業後6年目の期」を幹事期にして、その期を中心に同窓会を運営していくことになりました。卒業してから5年目ぐらいは仕事も落ち着き、仕事や結婚などで「これから人生、どうやって歩んでいこうか」と考える時期です。そういう年代の人を中心に、あさば会を企画・運営してもらうようになりました。年に1回、総会やシンポジウム、懇親会を開いており、在学生からベテランの養護教諭まで集まります。こういう場で卒業生と在学生がつながるのはとても良いことだと思います。若い人たちにとっては先輩の人生に触れるとても良い機会になりますから。そこでつながりができ、卒業後も交流が続くこともあります。在学中から同窓会に帰属意識を持ってもらうきっかけにもなりますね。あさば会ではそれで在学生と卒業生のつながりが強くなったので、香友会でも同じようにできると良いなと思います。

磯田 香友会にとって学生は「サービスを受ける側」であり、会に直接関わってもらうことはしていませんね。もう少し在学生を巻き込む形での活動が必要かもしれません。中村さんはいかがですか？

中村 そういえば私が初めて香友会の

幹事をやらせていただいたのも卒業してから5年ぐらい経ったころでした。うまく巻き込まれたんですね（笑）。ライフステージでいろいろ状況が変わるといってお話がありました。私自身、妊娠・出産で休職した後、元の職場に戻るつもりでいました。けれども出産が大変だったことなどもあって戻らずに退職したんですけれど、「栄養士である」ということが私のアイデンティティだったので、職場を離れることがとても辛かったことを覚えています。私だけでなく、「え、あんな優秀な人が辞めちゃうのー」ということもありました。同じことが自分に起きて、そのときは家庭に入ることが最善だったんだということがやっとわかりました。山下委員長の「今生きて生活している場が王道なんだ」というお話を聞いて、本当にそうだなと今は思います。

山下 今直面している道こそが一番大事なんです。今の状況を否定する必要はありません。人生のそのときそのときで大事なことが違います。余計なことかもしれませんが、中村さんのお話を聞いてつい言いたくなってしまうました（笑）。

磯田 中村さんが以前、若葉祭（学園祭）実行委員をやったことで先輩後輩のつながりもでき、香友会とのつながりも意識したと話されていたこと思い出したのですが、先ほどのあさば会のように、学生時代からも同窓会活動の担い手になる機会をつくると良いのではと思っています。例えば学生会員の幹事になっていた

だくなどすれば、単にサービスの受け手としてだけではなく、学生にも身近な香友会になるのではと期待します。その「王道」のとらえ方に広がりもできるのではないかと思うのです。

同窓会のニーズはどこに？ 会費の徴収法に課題も



磯田 香友会の状況が少しずつ見えてきたのでちょっと話題を変えまして、香友会をもっと広く知ってもらうための方法や、財政面がネックになって活動が縮小してきていることについて、何かご意見をいただけないでしょうか。

新出 世の中が変わってきているので、その時代のニーズに合った香友会、同窓会のあり方を考える必要があるかと思っています。これは研修部の仕事をしていても感じることで、つい一昨年までは坂戸や駒込まで行かなければ受けられなかった研修が、現在ではオンラインでできるようになってきています。一時期は香川栄養学園という場所で健康や栄養というテーマで学び、現在はさまざまな立場や場所にいる人たちがいる、というのが香友会の強みだと思います。その中で会員のニーズはどこにあるのか、方向性を見直すことが求められるのではないのでしょうか。たとえば研修部の場合、専門家のための勉強会、研修会も必要だとは思いますが、それぞれのライフステージで「先端の情報をちよっと知りたいたい」「忘れてしまったことを学び直したい」と思ったときに、それができるよう



中村 悟子

管理栄養士として病院に勤務後、現在は子育て中
学部平成24年卒、院修士令和2年修了

な研修のあり方が今の枠組みにはありません。

山下 研修の内容は私の任期中にほとんど変えることができませんでした。もう一つ大きな課題として残ったのが年会費とその徴収方法のことです。会費を払う人がだんだん減ってきておりまして、パンフレットを渡してもなかなか応えてもらえないジレンマがあります。私の積み残した問題はぜひ磯田会長の下で、一つひとつ整理していつてほしいですね。

磯田 山下前会長が問題だと思っていた点はかねがね伺っていました。コロナが来年どうなるかわかりませんが、逆にこれを良い機会と考え、いくつかある課題を整理する時間と捉えたいと思っています。会の規約についても整合性の点などを見直す作業を幹事長と事務局を中心にやっていただいています。今回の座談会でいただいたご提案も参考に会員皆で考え、新しい取り組みを進めていきます。専門学校では会費の問題はいかがで

すか？

遠藤 会費をどう集めるかというのは難しい問題です。専門学校では卒業生を呼んで技術講習会を開いていますが、それを香友会主催にしてその参加費を会費などに充てる、という方法は考えられます。ただ専門学校の生徒は、会費を払う見返りに得るものがないと、継続的に会費を払ってもらうのはちょっと難しいかもしれません。

山下 私の任期中、専門学校の立ち位置の違いは悩ましいことと感じていました。どうしたら満足してもらえるか考え、専門学校を手厚く支援してきたつもりです。専門学校入学のとき、皆さんに包丁をお贈りしたりしていますね。

遠藤 入学式や卒業式のときぐらいしか専門学校では香友会の名前を聞かないので、学校の行事やカリキュラムに香友会という名称が出てくるようにしないといけないですね。

磯田 入学式と卒業式のときだけ香友会の名前が出てくるのは大学でもあまり変わりありませんね。

中村 私もそうでしたけれど、卒業生はだいたい3月に新しい住所が決まりまます。ところが香友会の案内は旧住所や実家に送付されるので、そもそも香友会からの案内を見ていない、たまに実家へ帰ってみると送付物が届いている、ということがあると思います。

新出 そうそう、事務局によると戻ってくる会員向けの送付物がけっこう多いそうなのです。

中村 わかば奨学金をもらえばなしという人が多くない？と私などは思います。奨学金の条件に、「香友会の幹事になる」という条件を付けても良いくらいでは？（笑）。

建学の精神の継承を 香友会が担うことも



磯田 決算を見てもらうとわかりますが、会費を毎年いただかないと香友会の継続は難しい状況です。それはそれとして、学生には在学中に香友会への帰属意識を持ってもらうことが大事なのではないかと思っています。せっかく女子栄養大学で学ぶのだから、管理栄養士とか養護教諭とか目指す職業の枠を越えて、さまざまな先輩の話を聞いて自分の生き方に反映させる機会を持てると良いですね。

山下 それはぜひやっていただきたい。学園全体の雰囲気から目に見えない精神的なもの、「香川イズム」とでもいうべきものがだんだん薄れてきているように感じるとおっしゃる先輩方がいらついています。建学の精神の継承を香友会が積極的に担っても良いのではないのでしょうか。入学初年度に全新生が集まり、「香川イズム」を学ぶような科目を作る。そこで卒業生が話す機会を与えてもらう。本学のメリットは多様な職種を目指す人が集まることにあるので、一つの科目を全学年で学ぶことで共有してほしい。磯田さんが会長になったことでその可能性が開けてきたと思います。食を中核に新生が一つの場面を共有する、そこに卒



磯田 厚子

香友会第16代会長、女子栄養大学副学長、
女子栄養大学名誉教授
学部47年卒、院修士49年修了

業生が参画する。そのときできたつながりが卒業後も続けばいい。

磯田 建学の精神を教えるカリキュラムは今もありますが、そこに香友会が関わる形にはなっていないですね。

山下 そこで香友会、同窓会の価値というものが問われてきますね。今は入学式と卒業式に会長が挨拶するだけです。具体的には思いつきませんが、香友会と在学生の人的な交流を活発にする工夫が必要かもしれません。先ほども言いましたように、建学の精神を後の世代に継承できるのは香友会だと自負しています。学内で学生と香友会が交流する機会や場を作ってもらえたら嬉しいですね。「不易流行」という言葉がありますが、同窓会にも変えて良いことと、変えてはいけないことがあります。時代と共に新しいことを取り入れるのは必要なことではあるけれど、根っこは「香川イズム」を伝えていく組織であって欲しい。そこにあるのは「母校を愛する心」です。今回の

80年で積み上げた財産を 次の時代へ引き継ぐために



コロナ禍に当たり、香友会は全学生会員に一人2万円の支援金を差し上げました。その決定に反対する会員は一人もいませんでした。5400万円ほどかけて学生・生徒を支援したその背景には、「先輩はあなたたちを見守っている。がんばって」というメッセージを送りたかったからです。その学生・生徒たちには学園に流れる目に見えない精神を引き継いでもらいたいと強く願います。

磯田 これまでの活動の継続に加え、なにか新しいものも考えていく。学生会員に対してできることについても良いお話をいただきました。では最後に皆さんから、今日の座談会を踏まえて一言お願いいたします。

遠藤 専門学校の教員としてこの学園の精神をうまく生徒に伝え、香友会との交流を深めていけるようにしたいですね。大学の皆さんには専門学校をうまく使って欲しいと思います。その方が大学との距離が縮まると思いますので。お力になれることがあればぜひお声掛けください。

新出 香友会との距離感はライフステージや住んでいる地域によっても差があると思います。けれども同じ学園で学んだ仲間として、何かあったときつながれるようなコミュニティであって欲しいですね。「関わらなければいけないもの」ではなく、それぞれが「ほっとでき

る」「楽しい」と感じられる場として香友会と関わってもらえればと思います。

久保田 私が香友会の幹事に入っていたいたのは、学生と香友会を結ぶパイプ役としての役割があるということとこの座談会で改めて感じました。そして「この大学に入って良かった」と思えるような意識を醸成していくことに貢献したいと思っています。

中村 病院という職場では「女子栄養大学出身」という人によく出会います。それはとても嬉しいことですし、個人としても先輩の話を聞くのは楽しく、何かあったとき相談すること

もできる。香友会の幹事になって年齢の離れた先輩方と活動するのは、さまざまな人生経験に触れることができる貴重な機会です。多くの人にそういう機会を持ってもらいたいと思います。

山下 磯田さんが会長を引き受けてくださったことを香友会が飛躍するいいチャンスとして、70年、80年と積み上げてきた財産を引き継ぎ、今後ますます香友会が発展していくことを切に願っています。

磯田 いろいろなご提案をいただき、より開かれた香友会になっていくためのヒントをいただけたような気がします。



令和3年10月31日、香友会館にて

す。全国に卒業生が広がり、それぞれの支部での取り組みの支援も香友会としての大事な役割と認識しています。そして山下実行委員長からお話があったように、建学の精神を学生・生徒たちにつなげていくことの大切さを改めて感じました。皆さんにもこれからの香友会にますますご協力いただけるよう期待しています。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございます。